

兎の庭*著者高橋睦郎*発行一九八七年九月三〇日*装
幀者坂茂*発行者鈴木一民発行所書肆山田東京都豊島区
南池袋二―八―五―三〇一電話〇三―九八八―七四六七*印
刷シナノ印刷イナバ巧芸社製本山本製本所製函光陽紙器
製作所*一〇九二―二一四〇―三四二四*定価三五〇〇円

目次—兎の庭

岸 邊 で	*	覆 い 布 が … …	悪 い 兎	雨 の 王	狛	猿 を 食 う 人 び と	*	反 ア ン ジ ェ リ コ	雑 草 の 研 究	庭	*
36		32	28	26	22	20		16	12	10	

妙音 38

音楽 42

地上 44

「旅する男」のための素描 52

*

走虎宮 66

Stylophilie または 快楽の練習 68

シガ 永遠の女性 74

季霊 80

玄牝 82

*

RHETORICA 88

死海から 90

鬼の庭

装画
＝
アル
ブレ
ヒト・
デュー
ラー
より



庭

ほんもののヒキガエルが棲む
想像の庭について あなたは語った
だが 語ったあなたが立ち去ったいま
その庭は何で そのヒキガエルは何か
その庭はあなたで そのヒキガエルは

あなたの中心に蹲るあなたの脳みそだった
脳みそが脳みそのかたちのまま 埃になり
少しずつ 少しずつ 風に運び去られ
ついに あとかたも無くなつたいま
ヒキガエルは あなたが遺した言葉
その記憶にしかないし その影の
ヒキガエルと共にしか 庭はない
その言葉を 私たちの顫える舌が
雨の中で ひそかに甦らせるとき
私たちは雨の庭 私たちの脳みそは
雨を舐める濡れるヒキガエルとなって
ゆっくりと歩き出す そのヒキガエル
を離れて 私たちという庭は いない

雑草の研究

「雑草植物の世界では
つねに生存競争がおこなわれている
とくに自分の体から他の植物に
害を与える物質を出している
植物があるらしい」

謄写版刷りの藁半紙のレポートに
こう記した中学生のきみは まだ
植物の霊魂について何も知らなかった
植物の霊魂が霊体から出している
霊的物質について知らなかった

「それは私ではない

弟を殺したのは私の霊魂です
だから 私をではなく私の霊魂を
罰していただきたい 私には
罪はないのです」

と ある犯罪者は訴えている
実像としての人間をすこしずつ
人間の霊魂がある というのなら

セイタカアワダチソウをすこしずつ
セイタカアワダチソウの霊魂がある
セイタカアワダチソウの霊魂の行為は
しかし セイタカアワダチソウ自身に
確かな影響を与えずにはおかない
弟を殺した犯罪者の霊魂の行為は
犯罪者自身を絞首台に立たしめる

セイタカアワダチソウの霊魂をずれて
揺れているセイタカアワダチソウの群落を
押し分け 人間の世界に出て行ったきみには
すこしずつ 揺れている霊魂があったはずだ
同じレポートにつきぎのように記したのは
きみか それともきみの霊魂だったか

「去年セイタカアワダチソウの
目立っていたところは 今年
ずっと数が減っている 他の植物に
害を与える物質は 同時に自分を
滅ぼしていくのかもしれない」